

## やってみよう！「つるつるざらざら」ゲーム

### ゲームのポイント

このゲームでは、目隠しすることで、「見えない」体験をすることができます。また、「見ること」以外の感覚を強く意識することができるゲームでもあります。

対象 小学校～

準備物

- ・アイマスク
- ・つるつる、ざらざらのカード(表面がつるつる、裏面がざらざらの大きめのカード。段ボール等を利用して40～50枚程度作成する。 と の形を多めに作っておく。)

目的やねらい

・学級全体

アイマスクをつけることによって、視覚障がいの状態を理解し、カードの感触や形を頼りにゲームをする。

・個別

カードの感触や形を確かめ、ゲームを行う。

ゲームの内容

1. つるつるチーム(A)(B)と、ざらざらチーム(C)(D)の、4つのチームに分かれる。  
(1チーム6～7人程度になるように)
2. まずはAチームとCチームがそれぞれアイマスクをつけて、置かれたカードの周りに座る。
3. 「スタート」の合図で、Aチームはつるつる面に、Cチームはざらざら面にカードを返す。  
1分間の制限時間で互いにカードの返し合いをする。
4. 「ストップ」の合図でやめる。つるつるのカードが多ければAチームの勝ち、ざらざらのカードが多ければCチームの勝ちとなる。
5. BチームとDチームに交替してゲームを行う。



## 指導者の方へ

### ゲームを楽しむために留意すること

#### 環境調整、全体への指導等

- ・子どもが安心して遊ぶことができるよう、体育館や多目的室など、広い場所を確保し、危険物を除く。
- ・ゲームに参加する時はアイマスクを着用するため、激しい動きは避けるよう指導する。特に、頭と頭がぶつからないよう配慮する。
- ・審判役を決め、メンバーがぶつかりそうになったり近寄り過ぎて危険な場面になったら、「ストップ」をかけるようにする。
- ・学級によっては、参加する児童の手に鈴をつける等の配慮をし、どこに人がいるか理解しやすいようにする。

#### 個別の指導・支援の留意点（個別の観点）

- ・他の児童とぶつかることがないように配慮する。
- ・カードが置いてある範囲や、どのようなカードがあるか、などを教える。

#### <対象生徒の困難さ>

見えにくいこと・見えないことによる制限が、あそびの阻害要因となることが多くある。

#### <必要な指導や支援>

周囲の者が積極的に関わり、あそびかたを教える姿勢をもち、さまざまなあそびを数多く経験させていくことが大切である。

弱視児童の場合は特に目に衝撃を受けないよう配慮する。

おすすめ資料:『目の不自由な子の運動あそび100選』 1989年  
コレール社 五十嵐信敬著